

明治四十年「八條唱歌」

- 一 末^{すえ}は東の海に入る、中の流れの中川と
盡^つきぬ唱歌の聲^{こゑ}あげて、いざ船^{ふね}寄せよ八幡宮^{はちまんぐう}
- 二 公園^{ひろ}廣く池ありて、宮^{みや}は壯麗^{そうらい}木々高く
天然^{てんねん}瓦斯^{がす}の水白し、花^{はな}の紅葉^{もみぢ}も月雪も
- 三 秋の波打つ稲^{あおやぎ}の穂の、青柳^{あおやなぎ}見えて豊なり
東^{みでら}に御寺^{せいぞういん}の清蔵院^{せいぞういん}、屋根^{やね}の夕日^{ゆふひ}は影赤し
- 四 清き井戸^{いず}の水引きて、家^{いへ}に玉^{たま}ちる噴水^{ふんすい}に
思^{おも}い知らる庭^{にわ}の様、花^{はな}か紅葉^{もみぢ}か心地よし
- 五 鶴^{つる}の嘴^{くちばし}より燃^もゆてふ、瓦斯^{めいしよ}の名所^{なごころ}も程^{ほど}近く
出^いれど出^でる瓦斯^{がす}話^わ、聲^{こゑ}高^{たか}らかに八條殿^{はちじょうでん}
- 六 昔^{むかし}上杉^{うえすぎ}某^{なにか}の逃^{にが}れ来^{きた}りし跡^{あと}とかや
残^{のこ}るは淋^{さび}しきやぶ雀^{すずめ}、篠^{しの}打^うつ風^{かぜ}の音^ねばかり
- 七 合^あつて別^{わか}れては、又^{また}あう道^{みち}と入^いり谷^や江^えの
入^いり江^えに休^{やす}む高瀬^{たかせ}舟^{ふね}、流^{なが}れを渡^{わた}る白帆^{しらほ}あり
- 八 二筋^{にすぢ}道^{みち}となりてより、右^{みぎ}の蛙^{かむず}の横^{よこ}道^{みち}と
春^{はる}の初^{はつ}めの田^た植^うえ時^{とき}、喧^{かまび}すしくぞ聞^きゆなり
- 九 元^{もと}来^{とき}し道^{みち}に立^たち歸^{かえ}り、御堂^{みどう}の側^{わき}を過^わぎてより
別^{わか}れて行^いけば草加^{そうか}町^{まち}、高木^{たかぎ}橋^{はし}より二哩^{まい}餘^よ
- 十 右^{みぎ}に森^{しん}森^{しん}杉^{すぎ}木^{こだち}立^いなり、稲荷^{いなり}神社^{じんじや}は岡^{おか}の上^{かみ}
春^{はる}の櫻^{おう}花^かの爛^{らん}漫^{まん}と、下^{した}行^ゆく水^{みづ}は小堀^{こほり}なり
- 十一 西^{まぎ}に勝^{せい}れる西勝^{さいしょう}寺^じ、堂^{どう}宇^う高^{こう}大^{だい}瓦^わ屋^や根^ね
鴨^{かも}柄^えのほり物^{もの}龍^{りゆう}天^{てん}女^{じよ}、雲^{くも}よりをつる物^{もの}すごさ
- 十二 洋館^{ようかん}白^{しろ}く松^{まつ}あるは、是^{これ}ぞ部^ぶ長^{ちやう}の派^は出^{しゅつ}場^{じやう}
次^{つぎ}は渡^{わた}船^{せん}場^ば是^{これ}よりは、流^{なが}山^{やま}迄^{まで}一^{いち}里^りあり
- 十三 昔^{むかし}文^{ぶん}覺^{かく}上^{じやう}人^{にん}の、此^この地^ちにいつき祭^{まつ}られし
世^よに芳^かしき名^なを留^{とめ}し、觀^{かん}世^ぜ音^{おん}へ參^{さん}詣^{けい}せん
- 十四 其^{けい}の境^{がい}内^{ない}の無^む量^{りやう}寺^じは、徳^{とく}川^{がわ}公^{こう}の御^ご朱^{しゆ}印^{いん}の
ありし葵^{あおい}の紋^{もん}鴨^{かも}柄^え、語^{かた}り示^{しめ}せり大^{おほ}鴨^え脚^{きゃく}
- 十五 浅^{あさ}間^まの社^{やしろ}の木^き々^々青^{あお}く、一^{いち}望^{ぼう}整^{せい}然^{ぜん}水^{すい}田^{でん}の
横^{よこ}を過^{わた}ぐれば横^{よこ}堤^{づつ}の、念^{ねん}佛^{ぶつ}橋^{はし}もこのあたり
- 十六 幸^{さい}之^の宮^{みや}には宮^{みや}ありて、流^{なが}れに休^{やす}む鷗^{かもめ}あり
虚^こ空^う蔵^{ぞう}尊^{そん}の降^{くだ}られし、朝^あ暮^ぐか入^いり江^えも此^このあたり
- 十七 道^{みち}は堤^{づつ}の上^{うへ}となる、望^{のぞ}めばあきぬ秋^{あき}の稲^{いね}
右^{みぎ}は久^く佐^さ伊^い豆^{まづ}松^{まつ}繁^{しげ}み、夏^{なつ}の盛^{さか}りも暑^{あつ}からず
- 十八 村^{むら}の役^{やく}所^{しよ}は道^{みち}の右^{みぎ}、杉^{すぎ}影^{かげ}暗^{くら}き裏^{うら}行^ゆけば
旁^{かた}への堂^{どう}より五^ご六^{ろく}町^{ちやう}、村^{むら}の極^{きわ}みに鎮^{ちん}守^{じゆ}あり
- 十九 山^{さん}門^{もん}高^{たか}く鐘^{かね}ありて、池^いと水^{みづ}との形^{かたち}よく
鶴^{つる}巢^すありしと云^いい傳^{つた}ふ、村^{むら}の寶^{たから}と名^な付^{つけ}けたり
- 二十 島^{しま}の名^な今^{いま}に中^な島^{ごり}と、實^{じつ}に名^な残^{ざん}あり辨^{べん}才^{さい}天^{てん}
紅^{こう}白^{はく}梅^{ばい}のゆかしきて、池^いと水^{みづ}との形^{かたち}よく